

平成20年度

鳥取県立高等学校入学者選抜学力検査結果

鳥取県教育委員会

1 教科別得点の平均点及び総得点の平均点  
(全日制課程)

年度	教科名	国語	社会	数学	理科	英語	総得点
平成20年度	平均点	25.2	27.8	21.2	25.5	31.1	130.7

学力検査受検者数 3,809人  
各教科50点満点、合計250点

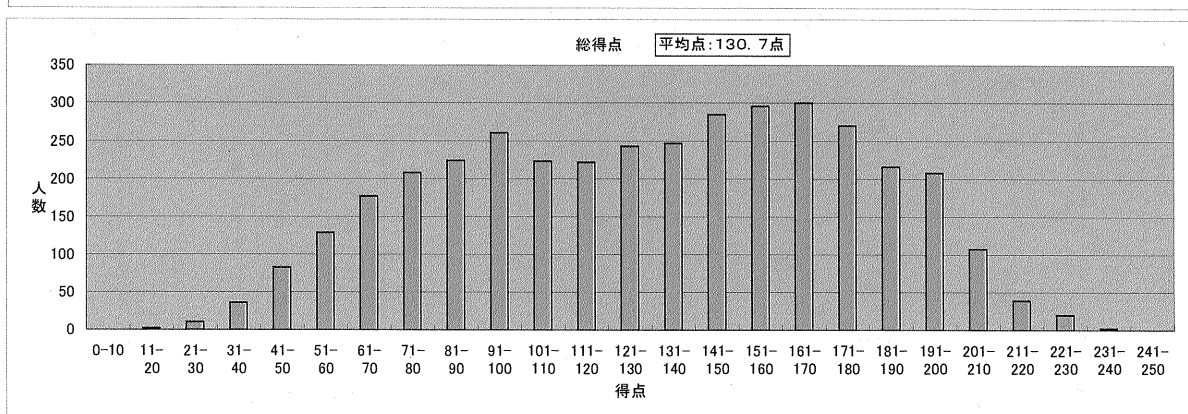
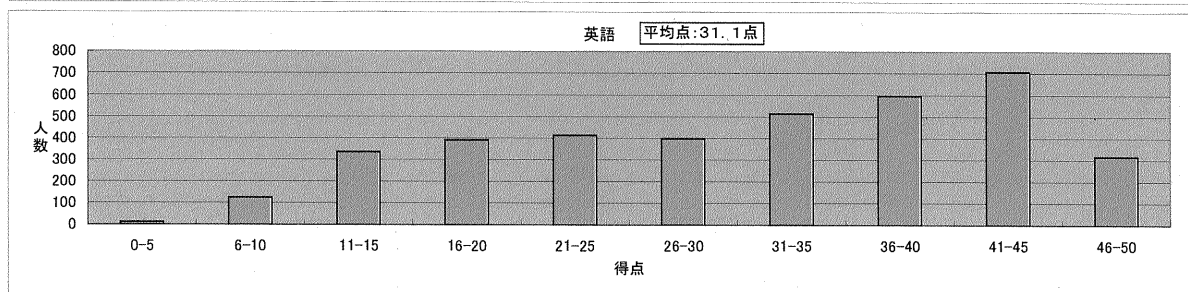
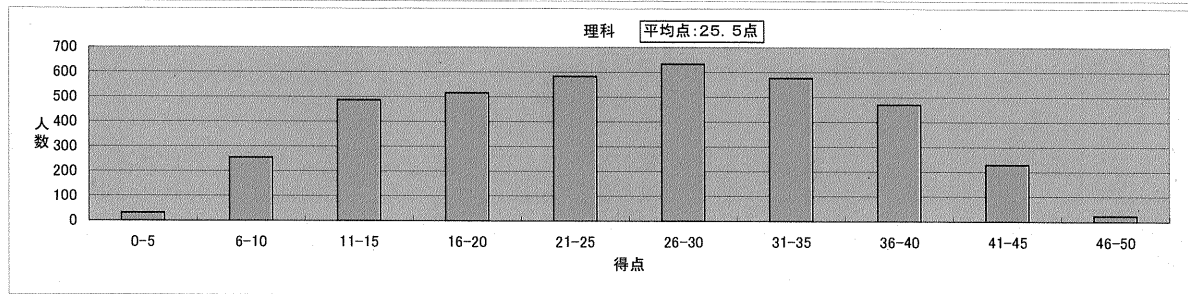
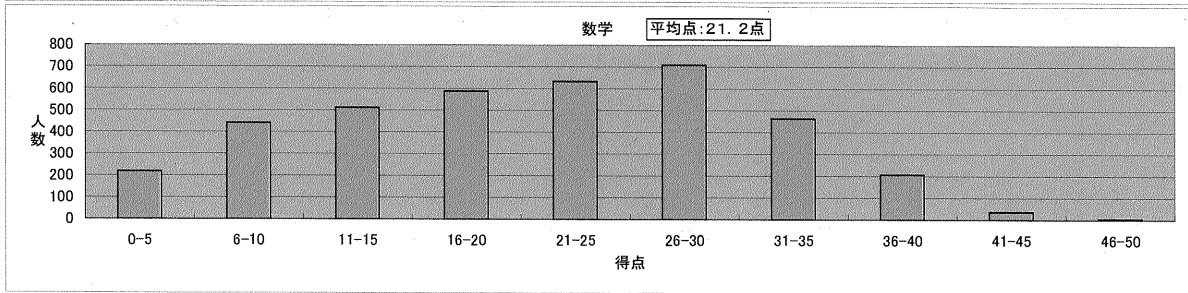
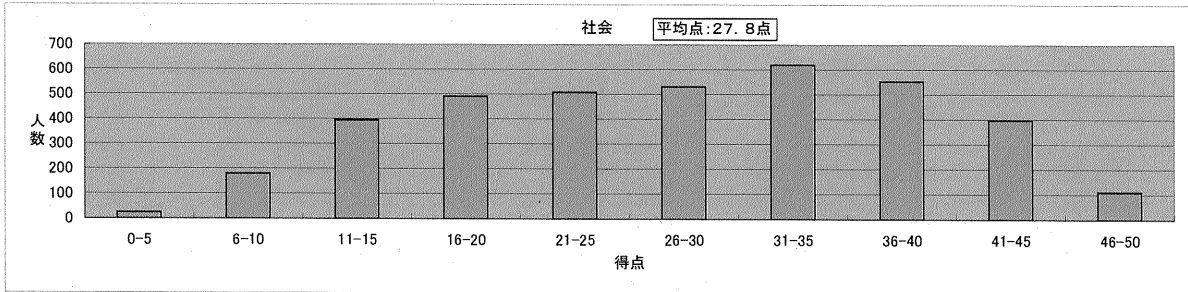
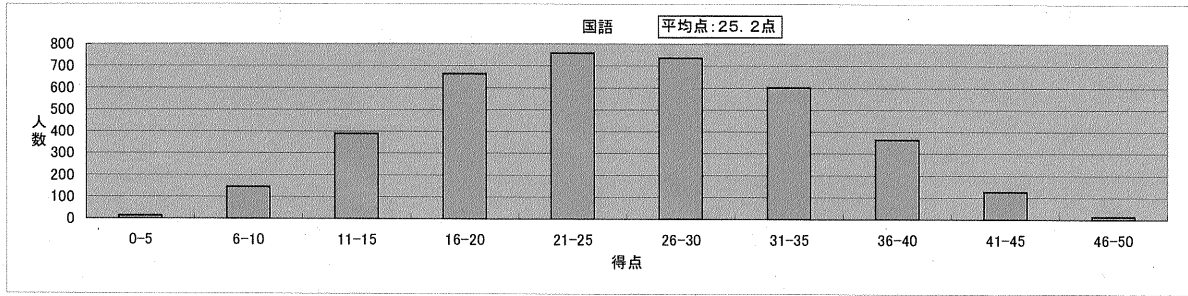
(参考)

年度	教科名	国語	社会	数学	理科	英語	総得点
平成19年度	平均点	29.8	29.2	21.0	28.7	26.0	134.7
平成18年度	平均点	30.6	24.7	17.6	25.7	28.3	127.0
平成17年度	平均点	24.9	30.5	22.9	25.9	28.1	132.2
平成16年度	平均点	32.8	28.4	27.6	32.0	27.8	148.6
平成15年度	平均点	34.6	29.2	23.9	28.1	27.3	143.1
平成14年度	平均点	28.8	28.6	25.9	26.3	28.2	137.6
平成13年度	平均点	31.1	31.2	28.4	30.8	28.6	151.1

各教科50点満点、合計250点

## 2 教科別得点の度数分布及び総得点の度数分布(全日制課程)

【グラフ】



【各教科における度数分布】

(人)

得点	教科	国語	社会	数学	理科	英語
0	～ 5	13	24	218	32	11
6	～ 10	145	179	441	255	125
11	～ 15	390	395	512	487	335
16	～ 20	664	491	587	517	391
21	～ 25	757	508	633	583	413
26	～ 30	736	531	709	633	398
31	～ 35	602	619	463	577	514
36	～ 40	363	552	206	471	597
41	～ 45	126	398	36	229	708
46	～ 50	13	110	4	23	317
受検者数		3,809	3,807	3,809	3,807	3,809

【総得点における度数分布】

総得点	人数
0 ～ 10	0
11 ～ 20	2
21 ～ 30	10
31 ～ 40	36
41 ～ 50	83
51 ～ 60	129
61 ～ 70	177
71 ～ 80	208
81 ～ 90	224
91 ～ 100	261
101 ～ 110	223
111 ～ 120	222
121 ～ 130	243
131 ～ 140	247
141 ～ 150	285
151 ～ 160	296
161 ～ 170	300
171 ～ 180	270
181 ～ 190	216
191 ～ 200	208
201 ～ 210	108
211 ～ 220	39
221 ～ 230	20
231 ～ 240	2
241 ～ 250	0
受検者数	3,809

### 3 教科別の学力検査結果の概要

#### 国 語

- 1 問題一は、例年通り小問集合形式による出題で、基礎的な国語の力をみるものとした。本文から間違いを指摘して訂正するものや、文章の書き換えの問題のように、基礎的な知識を活用して正答を導く問題に課題が見られるほか、パネルディスカッションに関する理解も不十分であると考えられる。
- 2 問題二は、説明的文章とした。前後の文脈から接続詞を考える問題は正答率が高く、本文全体の内容の読み取りも半数以上が正解であった。一方、反対の内容を探し出す問題では、直後の段落からの抜き出しによる誤答が多い。また、本文を補充する問題の正答率はいずれもきわめて低く、本文の展開と補充部分とを関連させて考えることに課題がある。
- 3 問題三は、古典分野の古文からの出題とした。歴史的仮名遣いや月の異名を答える基礎的な力についてはおり、文脈から主語を考える問題も概ね良好であったが、文脈から筆者の心情を考える問題は正答率が低かった。本文と注釈及び注の古歌との関連を理解できていない、あるいは「早苗」の意味が分かっていないことが理由として考えられる。
- 4 問題四は、小説として基礎的言語事項や登場人物の心情等の理解や読み取りの力をみた。文脈から空欄を補充する問題や文章の展開や心情を問う問題は正答率が高いが、文法的知識の定着には課題がある。また、適当な描写の抜き出し、本文全体から推測して答える問題は正答率が低だけでなく、無答率も高い。じっくりと本文を吟味して正答を導く態度の育成が必要である。
- 5 問題五は、独立した作文問題とし、日常生活の中での経験等を与えられた条件に即して表現する力をみた。無得点者の比率は例年と同様高めの傾向である。条件に従い、正確に書くことによって、自分の考えや意見を表現する力の育成が課題である。

## 社会

- 1 地理的分野において、地図、統計などの資料を正確に読み取るという地理的技能の基本は身につけている。しかし、思考や判断をみる問題では、問いに対する的確な解答がなされていない場合がある。また、都道府県庁所在地を問う問題で、無回答が多いのが気になる。
- 2 歴史的分野において、日本の時代ごとの出来事や歴史上の人物についての知識や理解については、学習の成果が現れているが、各時代の特色や歴史の大きな流れについては、十分な理解ができているとは言えない。
- 3 公民的分野の学習においては、憲法等の条文の理解がポイントのひとつであるが、具体的な社会事象との関わりの中での理解が不足しているため、単なる知識で終わっているところがある。また、社会問題に対して、資料の中からも課題を見いだし、表現していく態度は十分でない。
- 4 いずれの分野においても、普段の学習活動を通じて、社会の成り立ちや仕組み、社会の課題に対する興味・関心を高めていくこととともに、社会問題を教材として思考力や判断力を一層育成していくことが望まれる。

## 数学

- 1 各学年・各分野の基礎的・基本的事項の理解度及び単純な計算力をみる問題においては概ね正答率が高く、良好な結果であった。しかし、多少の思考を要する問題については、基本的事項であっても正答率が低かった。
- 2 身近な問題としてカレンダーを取り上げた。教科書でも取り上げられていることや、カレンダーの構造（数字の並び方）は経験上理解できていることなどもあり、一般化の問題（文字式への置き換え）については正答率が高かった。
- 3 全般的に、文字を用いた一般化、事象を関数化したあとの活用に関する問題に対する誤答、無答が多いのが気になる。事象のきまりや規則性に気づき論理的に考察したり、結果を活用する力の育成が必要である。
- 4 無答率が30%を超える問題が全体の2割強あった。型どおりには処理できない問題に直面したときに、表を作ったり、いくつかの値を代入するなどの具体的な操作をとおして、問題場面を理解しようとする態度の育成が必要である。
- 5 決められた時間内で処理しなければならず、時間が十分あればできたであろう問題も、誤答あるいは解答できない状態であったと思われる。計算力の育成はもちろんであるが、問題文を読み、何が問われているかを短時間に読み取る力は、教科指導の枠を超えて育成していくことが望まれる。

## 理科

- 1 身近な自然の事物・現象について、基礎的・基本的事項の理解をみる問題については正答率が高く、平素の学習の成果が現れていた。今後とも、広く全領域にわたって学習することが大切である。
- 2 一般的に、選択肢により解答する問題に比べ、記述により解答する問題では正答率が低かった。問題文や図表等で示された条件を読み取って、説明、計算、作図する問題では、的確に解答できていない受検生が目立ち、読解力や思考力・表現力が課題である。
- 3 実験・観察・調査・観測等により得られたデータを読み取って考察したり、計算する問題では、正答率が低いばかりでなく、無答率も高かった。実験・観察等で得られたデータを分析し、考察して自らの考えを導き出し、表現する力が十分ではないと考えられる。また、既習事項を関連づけながら、総合的に考察する力も必要である。
- 4 日常生活の中で驚いたり疑問に感じたりした現象について、調べたり考えたりする態度や能力を育成したり、平素の学習に可能な限り実験・観察を取り入れて、得られた結果を分析し、考察する習慣をつけるなど、探究的な学習を一層推進する必要がある。更に、探究の過程をレポートにまとめたり、プレゼンテーションをするなど、表現力の育成にも努める必要がある。

## 英語

- 1 聞き取り問題については、概ね良好であった。とりわけ、会話の内容と絵とを合わせる問題で正答率が非常に高かった。しかし、数字の聞き取りや計算を必要とする問題では正答率は低かった。詳細な情報の聞き取りと聞き取った情報を処理する実践的な力に課題がある。
- 2 問題2は、「書く力」を試す問題とした。定型表現を答える問題の正答率が高いが、文脈から判断して適語を入れる、会話中の日本語を英語で表現する、与えられた内容を英語で表現するなどの問題での正答率が低かった。自分の考えが読み手に正しく伝わるよう書く力に課題がある。
- 3 問題3は、「会話文」に関する問題とした。内容が職場体験学習という受検生に身近な題材であったこともあり、全体的に正答率は高かった。しかし、熟語を問う問題や日本語で本文の内容を自分の言葉で答える問題の正答率は低かった。
- 4 問題4は、「物語」に関する問題とした。本文の内容を選択肢で答える問題では正答率は高かったが、問題3と同様、日本語で本文の内容をまとめて答えたり、本文の内容を要約して英語でまとめる問題では正答率は低かった。
- 5 全体を通して、「聞くこと」「読むこと」については、概ね良好であるが、英語又は日本語で自分の考えをまとめるという表現力（「書くこと」を含める）が不足しており、普段からの指導が必要である。